

# 赤クロバリーの上手な作り方と使い方

## (一) 赤クロバリーを沢山とるには

### (a) 赤クロバリー多収の第一は適地を得ること

排水の良好な壤土、埴土が良好で、耕土が深く腐植に富んで土壌水分の多いことが必要です。また酸性の強いところは生育が不良となります。

寒気には強いが、夏の暑さには弱いので、西南暖地では秋播きし、夏まで利用して輪作地では更新、草地で永年草に移行させることが得策です。

### (b) 赤クロバリー多収の第二は施肥

赤クロバリーの乾草三八〇瓩(生草で一、五〇〇瓩)の芫葉と根に含まれている肥料分は硫酸安六三瓩、過石一五瓩、硫加二八瓩、炭カル一九瓩です。

従つて窒素分は根瘤菌の接種によつて六〇七割は空中からの固定窒素を利用し、施肥は少量で済むが、燐酸、加里、石灰分は可成りの量を施すことが必要です。

### (c) 赤クロバリー多収の第三は品種の選定

適品種の選定による増収ほど手取り早い道はありません。

#### 〇早期収量を挙げるには早生系の在来種

〇耐病(暖地の)と二年間の最高収量を得るにはケンランド

〇生存年限が長く晩刈り用、または一回の刈取りで多収を得るにはマンモスがそれぞれ

適当です。

## (二) 赤クロバリーの多収の第四は混播

赤クロバリーの頻繁な作付けは忌地現象を招き生育が不良となり、一般には七年位経過することが必要と言われております。しかし面積の關係でこのような長期輪作の出来ない場合が多く、いね科牧草の混播は忌地を緩和してくれ、更に草の生産も多く、暖地では夏枯れの緩和にも混播が必要です。混播にはチモシー、オーチャードが最もよく用いられます。

### (a) 赤クロバリー多収栽培の例

畦畔の改良に赤クロバリーを用いて関東地方で棚田の多いAさんは三反歩の畦の草生改良を計画し、赤クロバリーを主体としてイタリアン、オーチャード、ラデノを混播し、年々約一、二〇〇瓩の牧草を収穫し、今までほとんど利用されていなかった畦草から一、八〇〇〜二、一〇〇リットルの牛乳を生産しています。

### (d) 堤防に带状耕起を行つて赤クロバリーを導入。

中国地方で洪水の心配のなくなつた秋に堤防の野草を刈取り、等高線に三三糎毎に幅三三糎位深さ一〇糎程度に簡易耕起を行い、十月上旬頃迄に反当一瓩の赤クロバリーを播いて置きますと翌春から堤防の草は三〇七割が良質の赤クロバリーとなります。

(c) 四国地方の傾斜普通畑に各種牧草を秋播きして収量の多いのは苧料では赤クロバリー、い

ね科ではイタリアン、トールオートです。西南暖地で水田の裏作に赤クロバリーをつくり紫雲英の六割以上の増収を得ております。山口県農試の成績を图示しましょう。

水田裏作の赤クロバリーと紫雲英の比較

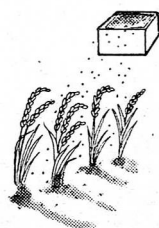
赤クロバリー

立毛落水直後中播

紫雲英

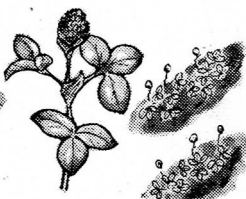
立毛落水直後中播

10月中旬播種



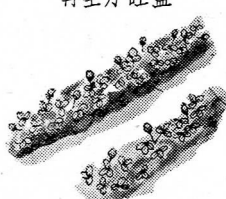
5月上旬刈取

3,750瓩

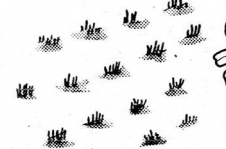


6月中、下旬刈取

2,175瓩



再生力なし



3,600瓩



反当計 5925瓩  
可消化純蛋白質 923瓩  
産乳量 2,237立



反当計 3600瓩  
可消化純蛋白質 288瓩  
産乳量 595立



# ラデノクロバールを主体とした集約放牧地を作ろう

## (一) 何故集約放牧地が必要か

乳牛の放牧は健康のために、又栄養価の高い草を与えるために、更に飼料栽培や、飼育労力の軽減のためにも絶対必要な事ですが、一頭当り何反歩もの放牧地をもつことは、今日では余程土地にエトリのない限り出来ません。そこで一反歩か、更に半反歩で一夏の放牧の出来るような生産の高い放牧地が必要になつて来ますが、それが所謂集約放牧地であり、この造成には、ラデノクロバールを主体とした草地が最も理想的であります。

(二) ラデノクロバール単播の放牧地はやめましょう  
ラデノクロバールのヨサは各地で認められ、寒地暖地を問わずこの草程急速に普及栽培されたものはありませんが、残念ながら単播が非常に多いこととあります。

放牧地のラデノ単播の弊害をみますと、

○養分的に蛋白に偏っている。

○稠密な繁茂で下草がムレて家畜が食わない。

○放牧時間が長く採食量が多くなるとガスを起す。

○害虫や病害の発生が多くなる。

○早魘や、冬枯れの害を受け易い。

等を挙げることが出来ます。そこでラデノクロバールの放牧地はこれらの弊害を除くとともに、更に増収のためにも、いね科の牧草と混播することが必要であります。

(三) ラデノクロバールを主体とした、混播放牧地の

## つくり方

### (a) 北海道、東北北部の場合

播種期 北海道八月上、中旬

東北北部八月下旬

### 混播組合せ(反当)

ラデノクロバール

○五キログラム

ペレニアルライグラス

○五キログラム

オーチャードグラス

○五キログラム

草生状況 利用一、二年目はラデノとペレニアルが主体となり、三年目以降はラデノ、

オーチャードが主体となり、四、八回の放

牧で常に荳科六、いね科四の割合で草の生

産が期待出来ます。

### (b) 関東地方の場合

播種期 九月中、下旬

### 混播組合せ

基本草種

ラデノクロバール

○五キログラム

オーチャード

○五キログラム

副次草種

イタリアンライグラス

○五キログラム

草生の状況 イタリアンライは利用第一年目の二番草から急激に衰退、その後はラデノ、

オーチャードが主体となる。但し乾燥地では夏にはラデノが極度に劣るので、有機

質の施用、灌水等を考える必要があります。荳

科単播に較べて三倍の草量となります。

### (c) 中国地方の場合

播種期 九月下旬

### 混播組合せ

初年目 オーチャード

一・〇キログラム

五〇〜六六種に条播

ラデノクロバール

○五キログラム

イタリアンライ

○五キログラム

を更に全面に撒播

二年目 オーチャードの生育状況によつて

○五〜一キログラムのイタリアンライを追播

草生状況 利用一年目はラデノとイタリアン

が旺盛に生育し、オーチャードは逐次草勢

を増す、二年目はラデノと追播イタリアン

が主体で、これにオーチャードが加わり、

三年以降はラデノ、オーチャードが主体と

なる。



ラデノクロバール(ペレニアルとオーチャード混播)放牧地の草生